

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニューズレター（日本語版）, No.81, February 2013

ARSC 事務局：〒164-0003 東京都中野区東中野 3 丁目 9 番 21 号

ウノサワビル (株)メッツ研究所内

応用地域学会事務局 文部科学省学会コード=10023

会長：黒田達朗 担当：宮本成雄

TEL: (03)3371-6242

FAX: (03)3371-6247

E-mail : clerk@arsc.org

主要項目： 第 26 回研究発表大会報告
2012 年度坂下賞
2013・2014 年度 副会長選挙案内
第 27 回研究発表大会のご案内
第 3 回アジア地域科学セミナーのご案内
応用地域学会論文賞の創設
会員の入退会について
2013 年度会費納入のお願い
総会報告

1. 第 26 回研究発表大会報告

大会実行委員長 猪原龍介（青森公立大学）

(1) 大会概要

第 26 回応用地域学会青森大会は、2012 年 11 月 17 日(土)、18 日(日)の 2 日間にわたり青森公立大学において開催されました。大会では研究発表大会に加え、一般公開シンポジウム、坂下賞講演、総会が行われ、2 日間の開催期間中に約 140 名の参加者がありました。大会の実施運営は、私を委員長とする大会実行委員会と、水野敬三先生（関西学院大学）を委員長とするプログラム委員会が担当しました。また、本大会の開催に当たっては、青森観光コンベンション協会より地元紹介用の配付資料をご提供いただきました。また、一般公開シンポジウムの広報では青森市よりご協力をいただきました。

(2) 研究発表大会

研究発表大会では、計4つのセッション会場が設けられ、2日間に64編の研究論文が報告されました。一般セッションでは、近年応用地域学会の中心的な研究領域として注目を集めている空間経済学や空間統計、CGEをはじめ、集積の経済、交通、住宅、立地といった主要テーマに関して、多くの報告が行われました。そのほか、特定セッション、Eirly Birdセッション、および東日本大震災から1年半が経過したことを踏まえて、被災地の復興に関するセッションも組み込まれました。いずれのセッションにおいても、討論者やフロアの参加者から多くの意見が寄せられ、活発な研究発表大会となったと考えております。

(3) 公開シンポジウム

東日本大震災から1年半を経て、復興の現状と課題が徐々に見えてきたを受けて、今年度の大会では、「東日本大震災からの復興と東北地方の持続的成長にむけて」と題しまして公開シンポジウムを開催しました。東日本大震災の被災地では、復興の進む地域もある一方で、そうでない地域も多く、被災地間での復興の格差が明らかになりつつあります。生活面・生産面の困難より人口流出も拡大しており、今後の復興のあり方、都市計画のあり方、目指すべき東北の将来像が問われています。当シンポジウムでは、こうした東北地域の現状と震災リスクへの対応について、2部構成で報告とパネルディスカッションを行いました。冒頭でコーディネーターである中村良平先生（岡山大学）から主旨説明をしていただき、第I部では東北地方の復興の現状と課題について、有路正浩氏（東北経済産業局）より被災各地の復興の進捗状況や経済情勢について具体的な説明をしていただき、次に深井勝美氏（日本政策投資銀行）より、復興に向けた企業への融資、援助の実情について詳細なご説明をいただきました。第II部では、震災リスクへの対応について、浜口伸明先生（神戸大学）よりサプライチェーンやリスク分散といった課題に対する企業の取り組みについて説明していただき、次に東北大学の奥村誠先生（東北大学）より、生活圏の安全性やライフラインの確保、そのための都市計画について説明をいただきました。以上の報告とパネルディスカッションを通して、新聞やニュースなどの報道では十分に伝わらない復興の現状や課題について、シンポジウム参加者が広く知ることのできた貴重な機会となったと考えます。

(4) 坂下賞記念公演

2011年度坂下賞受賞者の山本和博先生（大阪大学）が、“Economic geography, endogenous fertility, and agglomeration”と題して講演されました。少子化の問題は今日の日本をはじめ先進国諸国が共通してかかえる重要な問題のひとつといえます。本講演では、人口の大きい地域では出生率が低くなるという問題に対して、集積地における「消費拡大」とその反面としての少子化の観点から分析を行い、また輸送費用の低下が出生率の低下につながることを理論的に説明しました。

(5) 総会

上記坂下賞記念講演が終了した後で、16時30分から17時30分まで2012年度の総会が

開かれました。2011年度活動報告及び学会活動方針、会員異動報告、2011年度決算および2013年度予算が承認されました。その後、2012年度の坂下賞が、塚井誠人先生（広島大学）に与えられることに決定したことが、選考委員会委員長の佐々木公明先生（尚絅学院大学）より報告されるとともに、その授賞式が執り行われました。受賞理由は、地域科学，交通モデリング，空間計量経済学の分野において50編以上の査読論文を執筆し，多くの実証的研究を実施するとともに，定量的な評価結果から地域政策の立案に有用な政策的含意を数多く導き出しているというものです。最後に，坂下賞選考規定改訂と応用地域学会論文賞の創設について承認されました。

なお，第27回研究発表大会は京都大学において，第3回アジア地域科学セミナーは国立東華大学（National Dong Hwa University、台湾花蓮県寿豊郷）において開催されることになりました。

2. 2012年度坂下賞（Sakashita Prize）

2012年度坂下賞選考委員会 委員長 佐々木公明(尚絅学院大学)

2012年度の坂下賞については，選考委員会の慎重なる議論を経，以下のように塚井誠人氏（広島大学）に決定しました。

<受賞者>

塚井 誠人（広島大学工学研究院准教授）

<授賞理由>

塚井誠人氏の主たる貢献は，地域科学，交通モデリング，空間計量経済学の分野において50編以上の査読論文を執筆し，多くの実証的研究を実施するとともに，定量的な評価結果から地域政策の立案に有用な政策的含意を数多く導き出している点にある。なかでも，2002年，2007年のいずれも「土木学会論文集」に掲載された論文では，時空間計量経済モデルを用いて社会資本の生産力効果を分析している。このうち，2002年の論文では，生産活動による知識ストックが空間的にスピルオーバーする効果を考慮した地域生産関数を用いて社会資本の生産力効果を明らかにしている。塚井氏は本研究によって，土木学会論文奨励賞を受賞している。さらに，2007年の論文では，社会資本の整備効果が長期間にわたって発現することに着目し，長期的タイムラグ分布構造を考慮した地域生産関数モデルを推計することより，社会資本整備効果の時間的な波及効果と空間的な波及効果を定量的に把握することに成功している。社会資本の生産性分析は地域科学分野においても重要なテーマのひとつであり，特に近隣地域へのスピルオーバー効果は，最適資本配分の観点からみても有益な研究成果が求められている研究課題である。さらに，社会資本の効果が発現するラグ構造を分析していることは，将来の地域政策の立案に資する「公共投資関数」の導出に対して有益な知見を与えると考えられる。

以上，塚井氏はいずれの研究論文においても，特に都市・地域科学で重要な研究対象テーマである社会資本の生産性に関して，最近の空間計量経済学的手法を用いて緻密で厳密な実

証分析を行い、多くの有益な成果を得ている。理論研究のみならず実証分析を重要視する応用地域科学の分野において、重要な貢献を果たしている。また本学会においても運営委員や年次大会プログラム編成委員を務めており、学会の運営に大きく貢献している。よって、ここに 2012 年度坂下賞を授与する。

代表的業績：

塚井誠人，江尻 良，小林潔司，奥村 誠，(2002)，社会資本の生産性とスピルオーバー効果，土木学会論文集，No. 716/IV-57，pp. 53-67.

塚井誠人，小林潔司，(2007)，長期記憶性を考慮した社会資本の生産性測定，土木学会論文集 D，No. 63，pp. 255-274.

2012 年度坂下賞選考委員会

委員長	佐々木公明	(尚絅学院大学)
委員	瀬古 美喜	(慶應義塾大学)
委員	小林 潔司	(京都大学)
委員	黒田 達朗	(ARSC 会長)
委員	中村 良平	(ARSC 副会長)

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、塚井誠人氏には、黒田達朗会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

3. 坂下賞選考規程の改訂

ARSC 事務局

坂下賞選考規程の“第3条 [受賞者資格]”では、受賞者は、受賞時に満40歳以下となっていますが、受賞時は、例年、総会開催日であり、年度によって異なるため、12月末日に固定するよう改訂します。改定案は、2012年度の総会に諮られ、承認されたので、2013年度の選考から適用されます。

* 現行

[受賞者資格]

第3条：応用地域学会の会員であり、受賞時に満40歳以下であること。

* 改定

[受賞者資格]

第3条：応用地域学会の会員であり、受賞年度12月末日に満40歳以下であること。

4. 2013・2014年度副会長選挙について

選挙管理委員 赤木博文 (名城大学)

森杉雅史 (名城大学)

下記のように次期副会長選挙を行います。この副会長選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規Ⅱ第3条に従い、会長指名により、名城大学の赤木と森杉の両名が務めます。

応用地域学会会則第7条により、現会長黒田達朗先生(名古屋大学)の任期が2013年3月31日で満了となり、引き続き、現副会長中村良平先生(岡山大学)が会長に就任されます。それに伴いまして、次期副会長の選出を、会則第7条および選挙内規Ⅱに基き実施いたします。内規に基づき、既に、運営委員による無記名2名連記の投票の結果、次の3名の方が次期副会長候補者が選出されています。(苗字アイウエオ順、敬称略)。

安藤 朝夫 (東北大学)

瀬古 美喜 (慶應義塾大学)

文 世一 (京都大学)

会則第7条および選挙内規Ⅱにより、この3名の方を候補者として、下記の要領で副会長選挙を行います。

会員の皆様には、上記候補者の氏名を記した投票はがきを送付いたしますので、次期副会長に適任であると思われる方一名に○を付してご投票(投函)ください。なお、投票の締切は3月10日(当日消印有効)です。会則7条は、副会長の次期会長への自動昇任を規定しております。今回選出される副会長の任期は2013年4月～2015年3月となり、会長としての任期は2015年4月～2017年3月となります。

5. 第27回研究発表大会のご案内

ARSC事務局

2013年度のARSC研究発表大会は、京都大学において、小林潔司先生(京都大学、大会実行委員長)、文世一先生、森知也先生、松島格也先生(いずれも京都大学)を中心に、下記要領にて実施します。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 程：2013年12月14日(土)、15日(日)

(総会、懇親会は12月14日を予定)

会 場：京都大学吉田キャンパス

発表申込み〆切：2013年9月中旬(予定)

論文提出〆切：2013年11月中旬(予定)

お問合せ：ARSC事務局

(発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS次号(6月発行予定)、メーリングリスト、ホームページ(予定)で、ご案内していきます。)

6. 第3回アジア地域科学セミナーの開催案内

ARSC事務局

第3回アジア地域科学セミナーは、2013年8月7,8日と、台湾の国立東華大学で開催されます。参加申し込みは、ARSC事務局で取りまとめて行いますので、参加希望者（論文発表の有無を問わない）は、別添の参加申込書に必要事項を記して、2013年4月10日（水）までに、ARSC事務局にご送付ください。（詳細は、Call for Papers をご参照ください。）

◎第3回アジア地域科学セミナー（別添の開催案内、Call for Papers をご参照ください。）

- *日程；2013年8月7日（水）、8日（木）
- *場所；国立東華大学（National Dong Hwa University；台湾花蓮県寿豊郷）
- *参加・論文発表申し込み締め切り（ARSCへの申込期限）；2013年4月10日（水）
- *発表論文提出期限；2013年6月30日（日）

◎アジア地域科学セミナー開催経緯

11月の総会でも紹介されましたように、応用地域学会（ARSC）と中国地域学会（RSAC）とが共同開催してきました地域科学に関する日中共同セミナーは、2010年度から、広くアジア地域に広げ、アジア地域の地域科学の発展と研究交流の場としてスタートし、第1回は、北京大学で開催されました。

第2回は、2011年9月に、東北大学（日本 仙台市）での開催予定でしたが、大震災の影響で延期され、2012年9月に、北九州市で開催されました。この第2回からは、日本、中国、台湾、韓国の学会の共催のセミナーとして、原則、各国持ち回り開催とし、開催国が、開催費用を負担し、参加者から、参加費等を徴収するという開催方法に変わりました。

<第2回アジア地域科学セミナーの開催概要>

公益財団法人国際東アジア研究センター（ICSEAD）の協力をいただき、下記のように北九州市で開催されました。

- *開催日：2012年9月29日（土）、30日（日）
(29日夜；懇親会、30日午後；エクスカージョン)
- *開催場所：公益財団法人国際東アジア研究センター（北九州市小倉北区）
- *論文発表等：キーノートスピーチ4本、論文発表48本
- *参加者数：約70名

海外からは、中国7人、台湾10人、韓国6人、タイ1人の参加がありました。

7. 応用地域学会論文賞の創設

ARSC事務局

会員の研究活動を奨励し、地域科学の発展に資するために、応用地域学会が刊行する「応用地域学研究」ならびに「RURDS」に掲載された論文の中から、最も優れた論文に授与す

るものして、「応用地域学会論文賞」が、創設されました。「応用地域学会論文賞」は、11月の総会に提案され、論文賞の創設と選考規程が、承認されました。選考委員が、運営委員会で選任され、2013年度から賞の選考が行われることとなりました。

「応用地域学会論文賞」を目指して、「応用地域学研究」、「RURDS」への、奮っての投稿をお待ちしております。

「応用地域学会論文賞」の選考規程は、巻末に掲示しています。

8. 会員の入退会について

ARSC 事務局

2012年度総会(2012年11月17日)において、前回総会以降に入退会を申し込まれた方々、また、前回総会で紹介されなかった以下の方々について、入退会が承認されました(順不同・敬称略)。

入会

一般 13名

黒岩郁雄(JETRO アジア経済研究所)、住田潮(筑波大学)、杉浦政裕((独法)水資源機構)、岡寺智大((独法)国立環境研究所)、松浦宏之(太成学院大学)、福井秀樹(愛媛大学)、小林伸生(関西学院大学)、小川亮(大阪産業経済リサーチセンター)、石田貴士(千葉大学)、沖山充(榊現代文化研究所)、香川涼亮((一社)日本応用地質学会)、佐々木康朗(榊価値総合研究所)、伊藤匡(JETRO アジア経済研究所)、

学生 7名

吉井淳(筑波大学)、石川慎之助(榊つくばFC)、津田敏明(広島大学)、原田峻平(一橋大学)、徐航天(東北大学)、高橋賢司(筑波大学)、磯山啓明(上智大学)

同時に以下の方々の退会が承認されました(敬称略)。

退会

一般 8名

川嶋行彦(東京国際大学)、岡田憲夫(京都大学)、吉田あつし(筑波大学)、太田勝敏(東洋大学)、山根敬三(摂南大学)、山越伸浩(参議院)、山下彰一((財)国際東アジア研究センター)、李友畑(福岡女子大学)

学生 3名

影田康隆(広島大学)、菅澤晶子(東北大学)、姜雪梅(東北大学)

賛助会員 1法人

大阪商業大学

この結果、2012年11月17日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 420名、学生会員 56名、海外会員 9名、賛助会員 8法人(計 10口)となります。

	一般会員	411	13	-9	5	420	(連絡不通3, 休会1含)
個人会員	学生会員	57	7	-3	-5	56	(連絡不通1含)
	海外会員	9	0	0	0	9	
	合計	477	20	-12	0	485	
	賛助会員	10	0	-1	0	9	(10口)

9. 2013 年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベースに基づいて発行された請求書をお送りします。ご請求額を 2013 年 4 月 30 日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい(clerk@arsc.org)。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。（振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。）

(1) ARSC 会費

2013 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員（日本人の短期滞在者を除く）は、ARSC 年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60 です(RURDS は、全員に配布)。なお、海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI（国際地域学会）会費

<RSAIの会費納入>

RSAIの年会費は、会員に対するサービス内容によって以下のようになっております。応用地域学会を通じて、既にRSAI会員である方、新たにRSAI会員となることを希望する方は、受けている、または、希望するサービス内容の金額を、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

○ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを受ける場合 (A)

一般会員： ¥6,000円 学生会員： ¥3,000円

<サービス内容>

- ・ジャーナル (PiRS) の郵送による受け取り
- ・ニューズレターの郵送による受け取り

○ジャーナルや情報への電子アクセスのみを受ける場合 (B)

一般会員： ¥1,200円 学生会員： ¥800円

＜サービス内容＞

- ・ PiRSの電子コピー（Eメールによる受け取り）
- ・ ニュースレターの電子コピー（Eメールによる受け取り）

＜A, Bに共通したサービス内容＞

- ・ Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・ RSAIホームページへのアクセス
- ・ RSAIの会議への参加費割引
- ・ メンバーリストへのアクセス

＜RSAI 会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望＞

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。新規に入会を希望される方、ならびにサービス区分を変更される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入し、当該会費を振り込みください。退会する場合も通信欄にその旨ご記入ください。（この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI 会員サービス提供の手続きを行います。）

10. 総会報告

ARSC 事務局

2012年度の総会は、大会中の11月17日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

議題及び要旨；

1) 学会活動報告及び活動方針

黒田達朗会長より、2012年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告（前掲）

3) 2011年度決算（別掲）

監査委員（平澤享輔先生(札幌学院大学)、衣笠達夫先生(追手門学院大学))の監査を受けた2011年度決算書が報告され、原案どおり2011年度決算が承認されました。

4) 2013年度予算（別掲）

原案どおり2013年度予算が承認されました。

5) 応用地域学会2012年度坂下賞(前掲)

2012年度坂下賞は、前掲のとおり、広島大学の塚井誠人先生が、授賞されました。また、坂下賞選考規程の一部の変更案が示され、承認されました。（前掲）

6) 2011年度研究発表大会の開催について（前掲）

7) 2011年度アジア地域科学セミナーの開催について（前掲）

8) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

①応用地域学研究

応用地域学研究の編集委員長の太澤義明先生（筑波大学）から、No17の編集状況について、投稿数が少ないこともあって発刊が遅れていること、年々投稿本数が減っている傾向にあるが、皆様の奮っての投稿をお願いします、との報告がありました。

②RURDS

RURDSの編集については、編集委員長黒田達朗先生（名古屋大学）から、2012年度の発刊は、No.1、2 合併号は、編集も終わり、間もなく送付されること、No.3も1月~2月には発刊される予定である旨の報告がありました。

9)「応用地域学会論文賞」の創設（前掲）

9. 事務局だより

ARSC 事務局 宮本成雄

- **第26回 ARSC 研究発表大会**は、青森公立大学で開催されました。天候のこともあり、11月中旬の開催となりました。八甲田山の山麓（近く？）のキャンパス、ならびにその周辺は、紅葉の名残を処々にちりばめ、東北の晩秋の真ただ中、熱い議論が展開されていました。大会委員長の猪原龍介先生、木立力先生をはじめとする青森公立大学の皆様、ご協力をいただきました青森中央学院大学の森田学先生には、そのご尽力に深く感謝申し上げます。また、プログラム委員長を勤められた水野敬三先生（関西学院大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、同じく深く感謝申し上げます。
- **副会長の選挙**です。2013年度からの2年間会長を補佐し、また、2015年度からはARSC会長として、ARSCの運営にご尽力をいただく副会長を選出する大事な選挙です。何かとご多忙の折かと思いますが、大変重要な選挙です。お忘れなきようお願い申し上げます。
- **会員登録情報の変更をお忘れなきようお願いいたします**。新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ホームページにある「**会員ページ**」<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログイン、変更登録をお願い申し上げます。（ログイン ID,パスワードをお忘れの方は、事務局 <clerk@arsc.org>にお問い合わせください。）
- **地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します**。入会申込は、web上で行えます。ARSCのホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「新規入会」のページにアクセス、又は、直接 (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>) にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)決算

収入の部	2010年度決算		2011年度予算		2011年度決算(案)	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,575,522		7,913,674		7,913,674	
2.個人会費収入	3,769,973		4,575,000	1,500.00	3,921,399	
3. RSAI会費	182,000		271,000		199,600	
4.賛助会費収入	650,000		1,000,000		600,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0		0		0	
6.大会参加費収入	1,107,722		860,000		579,000	
(年次大会)	559,000		560,000		579,000	
(アジア地域科学セミナー)	548,722		300,000		0	
7.大会開催寄付金	80,000		0		100,000	
8.利子収入	786		0		279	
9.雑誌販売(Back Number)	11,580		0		9,250	
10.その他	0		400,000		800,000	
(RURDS編集補助2010年度 * (同上 2011年度))	0		400,000		400,000	
収入合計	14,377,583	0	15,019,674		14,123,202	

(繰越金を除く収入合計) 5,802,061 7,106,000 1,500.00 6,209,528

(* (財)昭和経済研究所より)

支出の部	2010年度決算		2011年度予算		2011年度決算(案)	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. RURDS購読費	2,814,642		3,601,400		2,797,144	
(編集経費)	59,400		400,000		70,200	
(購読費)	2,755,242		3,201,400		2,726,944	
2.年報刊行費	662,940		1,050,000		0	
3.大会開催費	1,739,859		1,670,000		952,628	
(年次大会)	933,149		1,070,000		952,628	
(アジア地域科学セミナー)	806,710		600,000		0	
4. RSAIへの送金	191,215		271,000		264,856	
5.坂下賞	121,000		121,000		121,000	
6.名簿印刷費	0		0		0	
7. ニュースレター等印刷費	189,286		20,000		48,037	
8.一般事務費	259,067		190,000		360,433	
(郵送費)	115,900		50,000		108,715	
(消耗品等)	19,457		20,000		28,138	
(謝金・交通費等)	105,610		100,000		209,870	
(銀行手数料)	18,100		20,000		13,710	
9.事務局費	485,900		670,000		741,186	
(事務管理・事務員費)			500,000		495,080	
(会員管理システム費)			170,000		246,106	
10.予備費	0		50,000		0	
支出合計	6,463,909	0	7,643,400		5,285,284	
繰越金	7,913,674	0	7,376,274	1,500.00	8,837,918	
ドル貨円換算(手数料を除く)			65,500			
繰越金合計	7,913,674		7,441,774		8,837,918	

注: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2012年 月 日 監査委員

監査委員

衣笠達夫 (印)
平澤亨輔 (印)

(3) 2013 年度予算

応用地域学会2013年度予算書						
収入の部	2011年度決算		2012年度予算		2013 年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,913,674		8,837,918	0.00	7,478,608	
2.個人会費収入	3,921,399		4,625,000	1,100.00	4,675,000	1,100.00
3.RSAI会費	199,600		271,000	0.00	281,000	
4.賛助会費収入	600,000		900,000	0.00	800,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0			0.00		
6.大会参加費収入	579,000		860,000	0.00	560,000	
(年次大会)	579,000		560,000	0.00	560,000	
(地域科学セミナー)	0		300,000	0.00	0	
7.大会開催寄付金	100,000		0	0.00	0	
8.利子収入	279		0	0.00	0	
9.雑誌販売(Back Number)	9,250		0	0.00	0	
10.その他	800,000		400,000	0.00	0	
(RURDS編集補助*)	400,000		400,000	0.00	0	
	400,000				0	
収入合計	14,123,202		15,893,918	1,100.00	13,794,608	1,100.00
(繰越金を除く収入合計)	6,209,528		7,056,000	88,000	6,316,000	88,000
(ドル貨を含む)			7,097,500		6,357,500	
支出の部	2011年度決算		2012年度予算		2013年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	2,797,144		3,549,500	0.00	3,681,400	
(編集発行費)	70,200		400,000	0.00	500,000	
(会員購読費)	2,726,944		3,149,500	0.00	3,181,400	
2.年報刊行費	0		1,815,310	0.00	900,000	0.00
(2012年度No.17)			950,000			
(2011年度No.16)			865,310			
3.大会開催費	952,628		1,870,000	0.00	980,000	0.00
(年次大会)	952,628		1,070,000	0.00	960,000	0.00
(地域科学セミナー)	0		800,000	0.00	20,000	0.00
4.RSAIへの送金	264,856		271,000	0.00	281,000	0.00
5.坂下賞	121,000		121,000	0.00	121,000	0.00
6.ニューズレター等印刷費	48,037		20,000	0.00	20,000	0.00
7.一般事務費	360,433		190,000	0.00	290,000	0.00
(郵送費)	108,715		50,000	0.00	100,000	0.00
(消耗品等)	28,138		20,000	0.00	20,000	0.00
(交通費・謝金等)	209,870		100,000	0.00	150,000	0.00
(銀行手数料)	13,710		20,000	0.00	20,000	0.00
8.事務局費	741,186		570,000	0.00	500,000	0.00
(事務管理・事務員費)	495,080		400,000	0.00	330,000	0.00
(会員管理システム費)	246,106		170,000	0.00	170,000	0.00
9.予備費	0		50,000	0.00	50,000	0.00
支出合計	5,285,284		8,456,810	0.00	6,823,400	0.00
繰越金	8,837,918		7,437,108	1,100.00	6,971,208	1,100.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			41,500		41,500	
繰越金合計	8,837,918		7,478,608		7,012,708	
収支差	924,244		-1,359,310		-465,900	
注1:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。						

応用地域学会論文賞（Best Paper Award of ARSC）選考規程

【目的】

第1条：日本における地域科学の研究を発展させ、応用地域学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、会員の活発な研究活動を奨励することを目的とする。

【受賞対象】

第2条：応用地域学会が刊行する「応用地域学研究」および「Review of Urban and Regional Development Studies」に掲載された論文の中から、応用地域学会会員によるもっとも優れた論文を対象とする。なお、共著者に非会員がいる場合も対象に含むこととする。

【受賞者資格】

第3条：論文投稿時および掲載時において応用地域学会の会員であること。

【受賞者数】

第4条：原則として各年1ないし2編の論文の著者とする。

【選考委員会】

第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

【選考委員の任期】

第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

【受賞者の決定】

第7条：選考委員会は受賞者を決定し、その選考結果を運営委員会に報告し、了承を得るものとする。

【受賞者の表彰】

第8条：受賞者は、研究発表大会で表彰されるものとする。

【附則1】

この規程は、2013年 1月 1日から施行。

【附則2】

選考委員の任期について、2013年から2016年の間は、別途申し合わせ事項によるものとする。

2013年から2016年の間の選考委員の任期についての申し合わせ

2013年の第1回運営委員会で3名の選考委員を選出する。第6条に定めた、委員任期が3年、1年にひとりずつ新任および退任の規則に合致させること、に整合させるために、
2013年は、上記の3名、
2014年は、3名のうち1名が退任して、2014年度運営委員会選出委員が新任、
2015年は、2013年に選出された3名のうち1名が退任して、2015年度運営委員会選出委員が新任
2016年は、2013年に選出された3名のうち最後の1名が退任して、2016年度運営委員会選出委員が新任となる。